



2025年問題を知り、地域完結型医療を考える。

～地域中核病院の役割と使命～



磐田市立総合病院 病院長

鈴木昌八

地域医療シンポジウム in もりまち 2016.9.22

25年前の米国留学時に感じたこと：医療編

やっぱり進んでいる先進医療

移植医療：生体ではなく、
死体肝移植が中心

腹腔鏡下手術

手術器材はディスポ製品
手術後にたくさんの廃棄物

医療機関への
フリーアクセス権なし

何事も**家庭医(かかりつけ医)**
を通して始まる

扁桃腺手術
当日日帰り40万円

高額な医療費：日本人でよかった

日本の医療保険制度でやっていける？

超高齢社会における医療の仕組みづくり

超高齢社会を迎えている日本

医療の質と効率性の
継続的な改善

地域で支える仕組みづくり



地域完結型医療
地域医療構想
地域包括ケアシステム

本日のメニュー

1. 2025年問題とは？

将来人口の影響 など

2. 地域完結型医療とは？

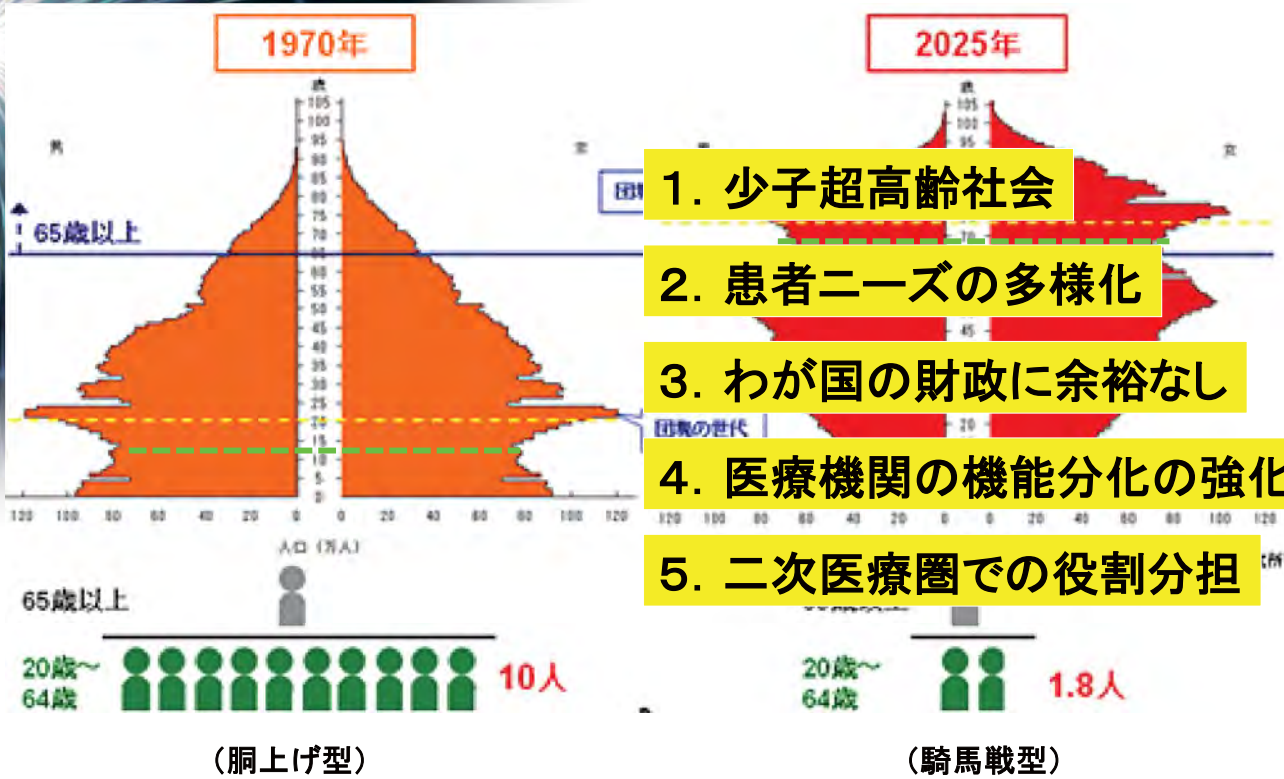
地域中核病院の役割と使命 など

3. 地域医療構想について知ろう

地域包括ケアシステム など



これからの日本の医療は？



1. 少子超高齢社会
2. 患者ニーズの多様化
3. わが国の財政に余裕なし
4. 医療機関の機能分化の強化
5. 二次医療圏での役割分担

Q:2025年問題とは？

2025年

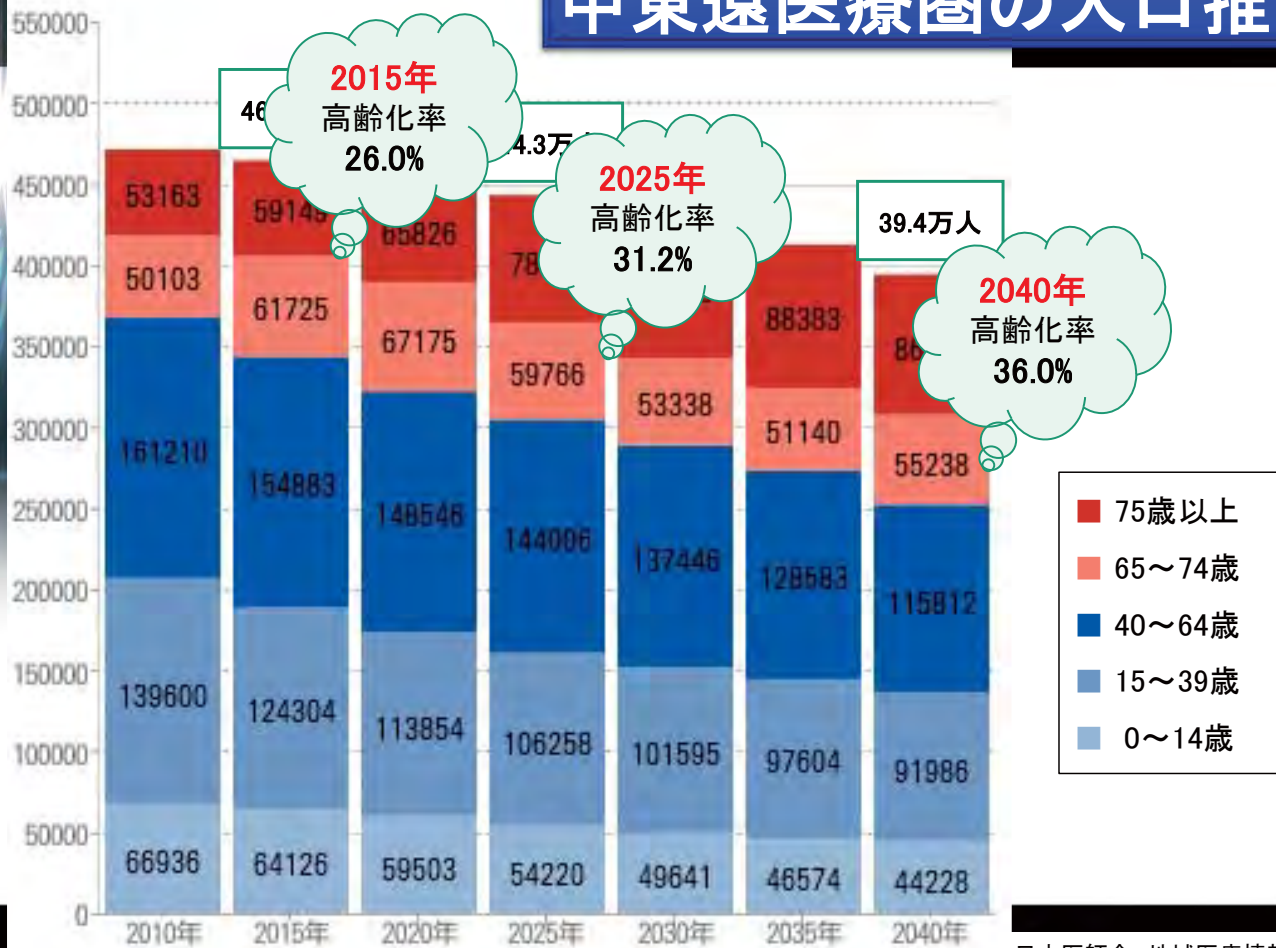
終戦(昭和20年:1945)から80年

昭和元年からちょうど100年

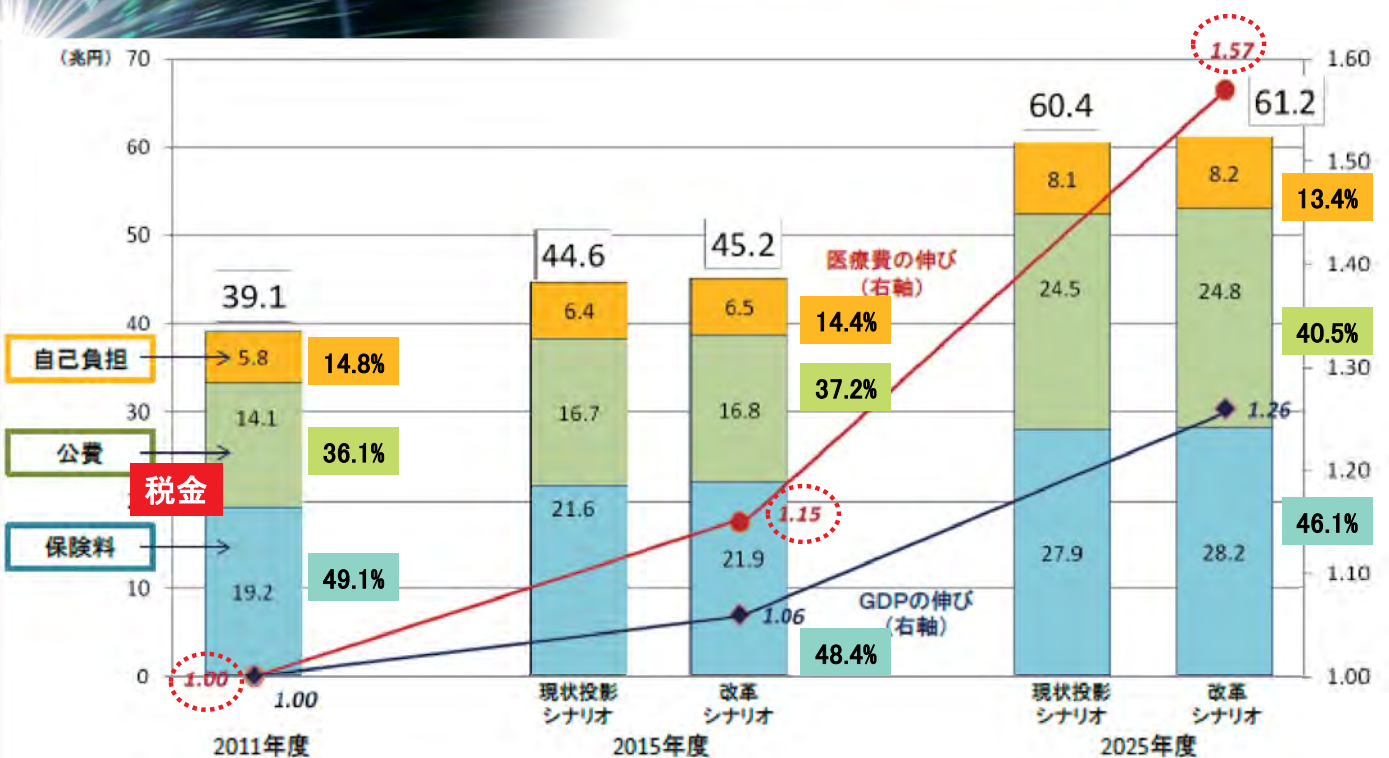
「2025年問題」とは、

団塊の世代が後期高齢者となり、少子高齢化問題にさらに拍車がかかることで生じる介護・医療費等社会保障費の急増が懸念される問題を表した言葉です。

中東遠医療圏の人口推計



日本の医療費の将来推計

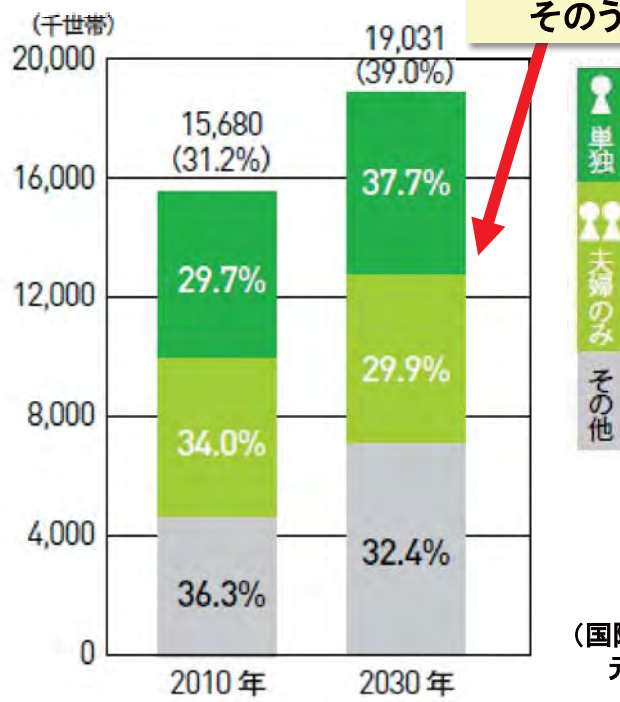


厚生労働省中医協費用対効果部会資料 2013年9月

誰と暮らす？どう暮らす？

高齢者世帯の内訳

2030年には、
全世帯の約4割が高齢者世帯
 そのうち高齢者のみの世帯が7割



単独
 夫婦のみ
 その他

(国際長寿センター：
 元氣百歳になる方法より)

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」(2008)
 ()内は総世帯数に対する高齢者世帯数の割合

2025年問題

超高齢社会の抱える問題

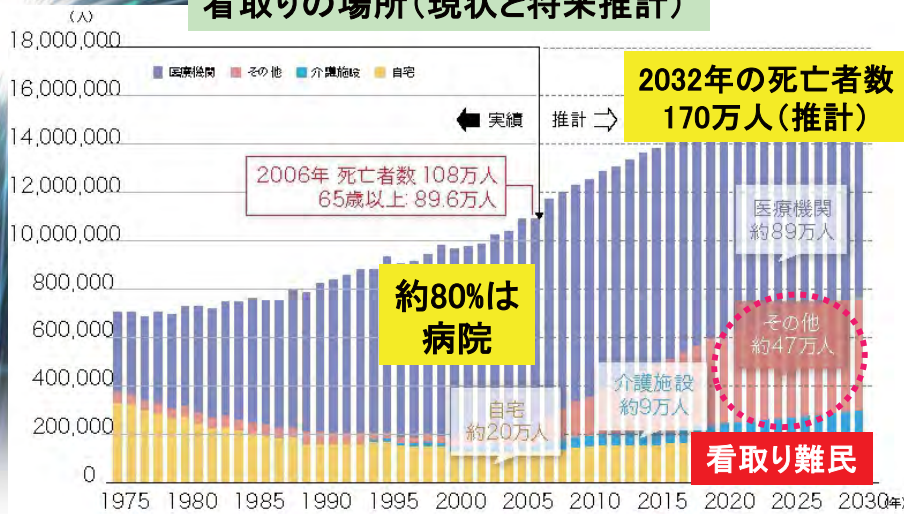
少産多死時代

- ・複数の慢性疾患併存
- ・認知症患者の増加
- ・介護の担い手不足
 - 高年齢者世帯の増加 など
 - 訪問看護師・介護ヘルパー 不足
- ・社会保障費の増大

2025年で終わるわけではない!!!

少産多死時代の高齢者ケアのあり方

看取りの場所（現状と将来推計）



病院ベッド数は限られる

2032年には
半数の方は病院以外で
看取る受け皿作りが必要



在宅医療

コミュニティケア

地域包括ケアシステム

地域に生活する高齢者の医療・介護・
介護予防・住まい・生活支援を一体的
に提供するためのケアシステム

本日のメニュー

1. 2025年問題とは？

将来人口の影響 など

2. 地域完結型医療とは？

地域中核病院の役割と使命 など

3. 地域医療構想について知ろう

地域包括ケアシステム など



中東遠地域における中核病院



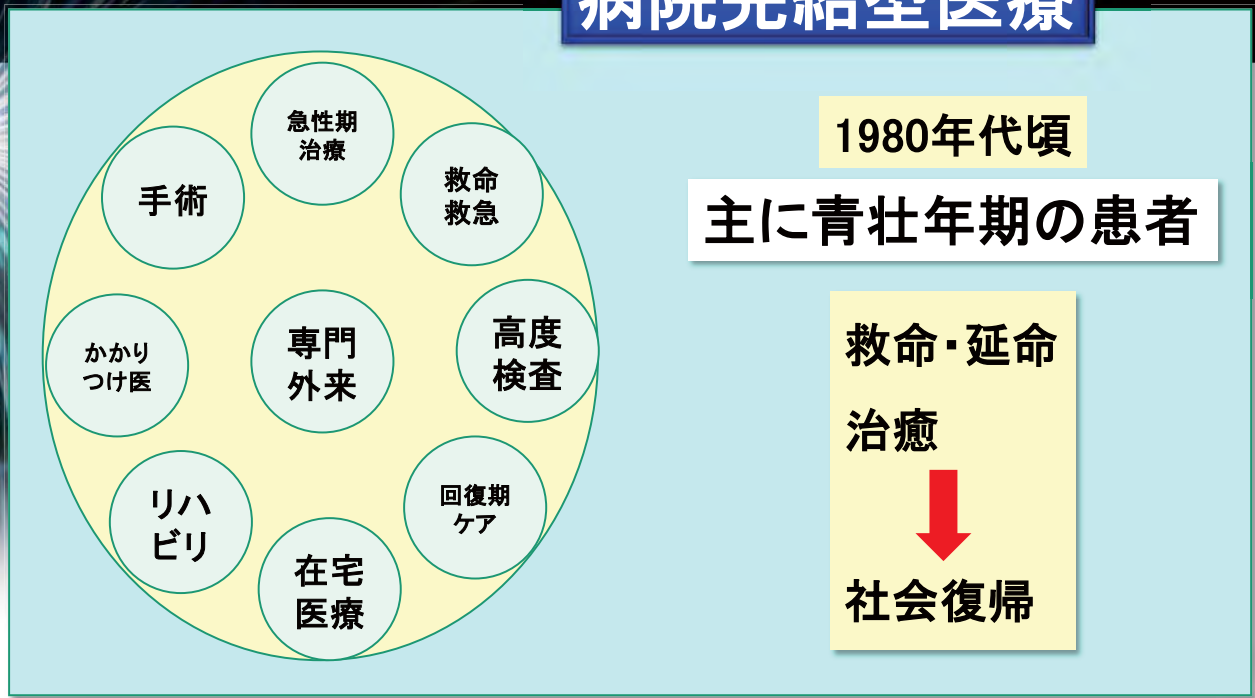
磐田市立総合病院(500床)



中東遠総合医療センター(500床)

1. 地域の医療連携の拠点としての役割を担う病院
円滑な地域医療連携(紹介・逆紹介)を推進
2. かかりつけ医で行うことが難しい画像検査(CTやMRIなど)や、より専門的で高度な医療機能(救命救急・周産期・がん診療)など、質の高い医療サービスを提供する地域の基幹病院

病院完結型医療



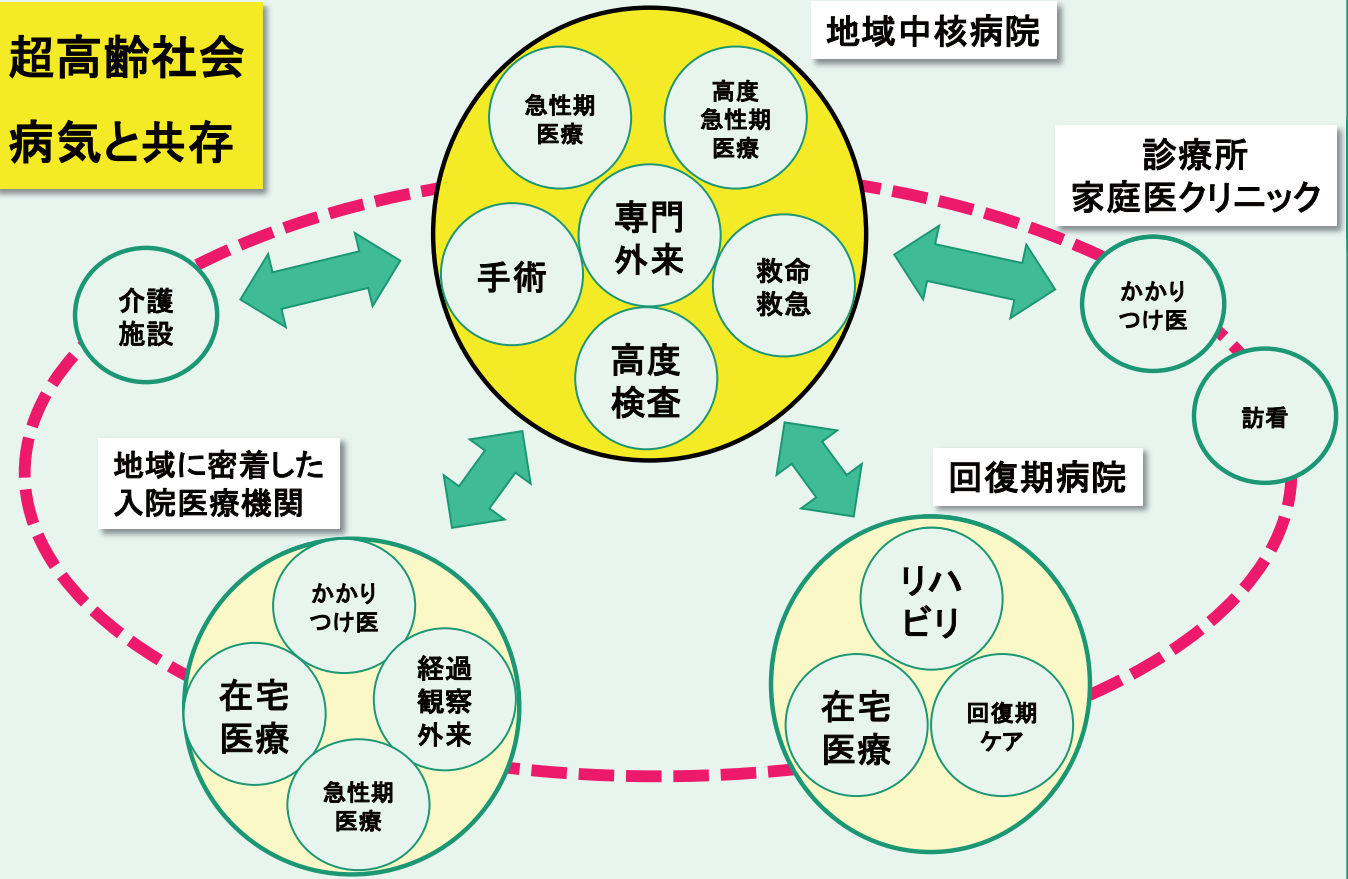
平均寿命80歳越えの時代
病院完結型医療では対応できない

病気と共存
生活の質の維持・向上

地域完結型医療

それぞれの得意分野を活かし、
地域で治し・支えていく時代

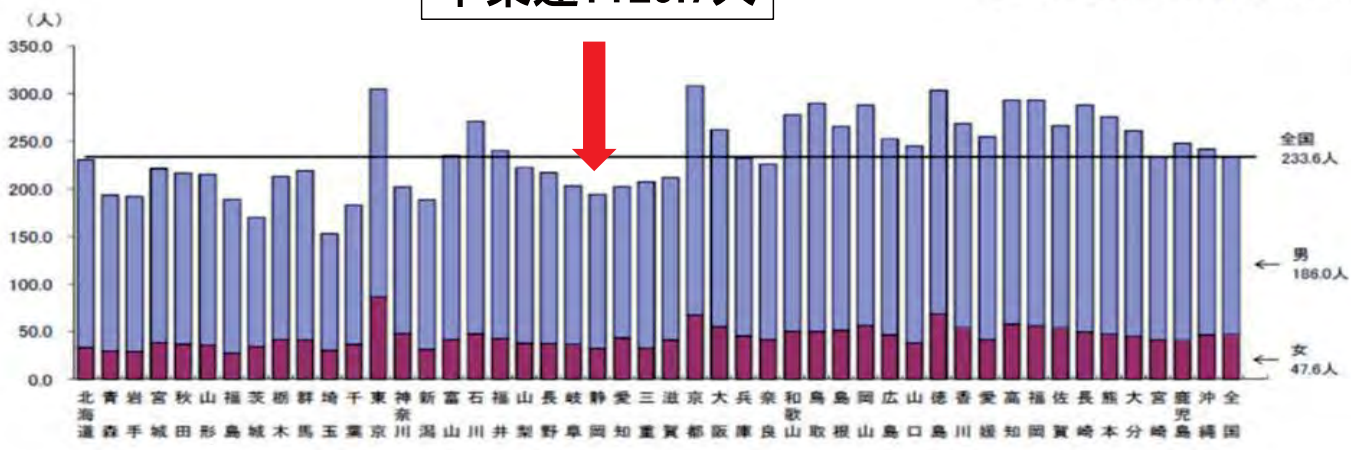
超高齢社会
病気と共存



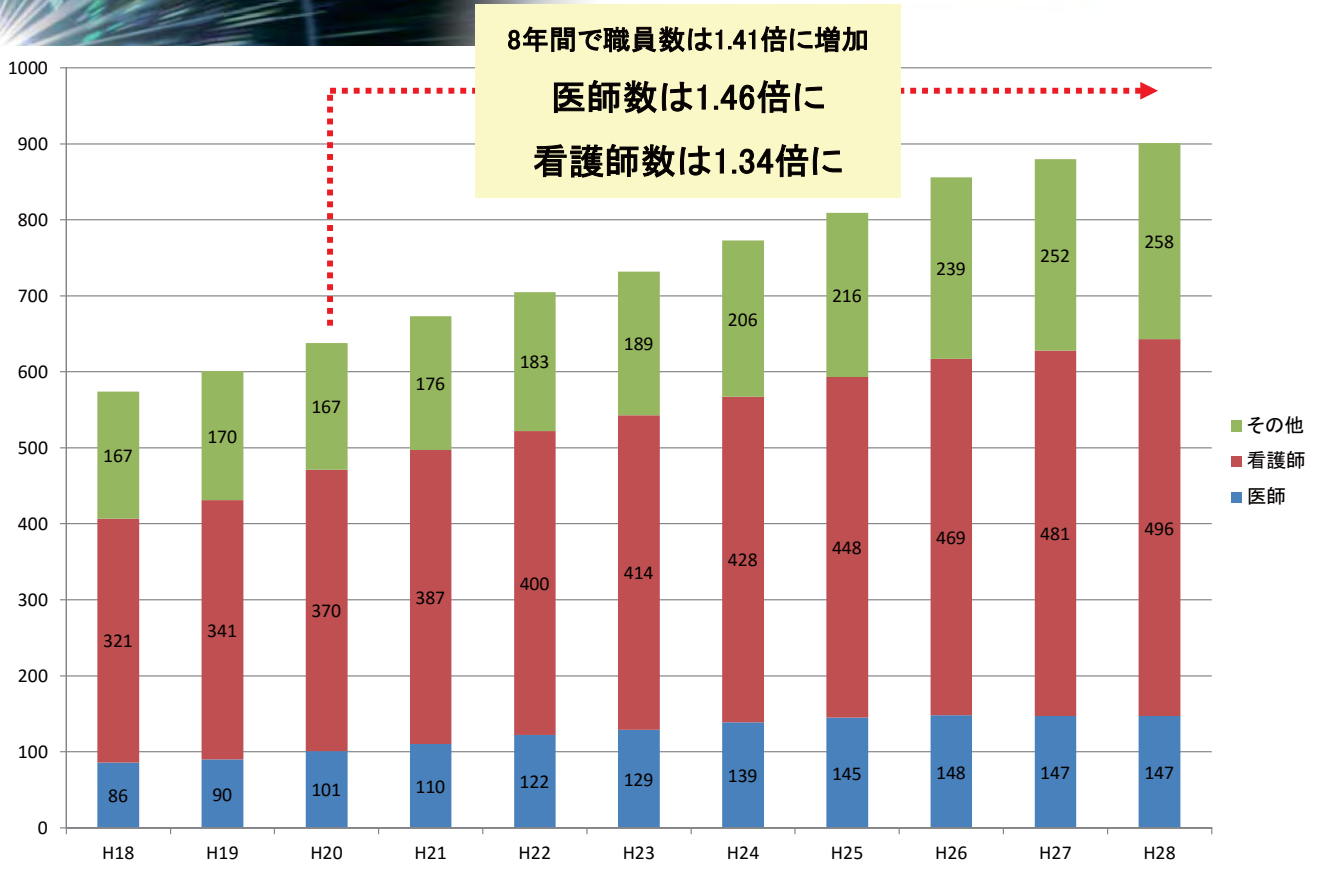
人口10万人あたりの医師数

静岡県: 201.5人
(全国42位)
中東遠: 129.7人

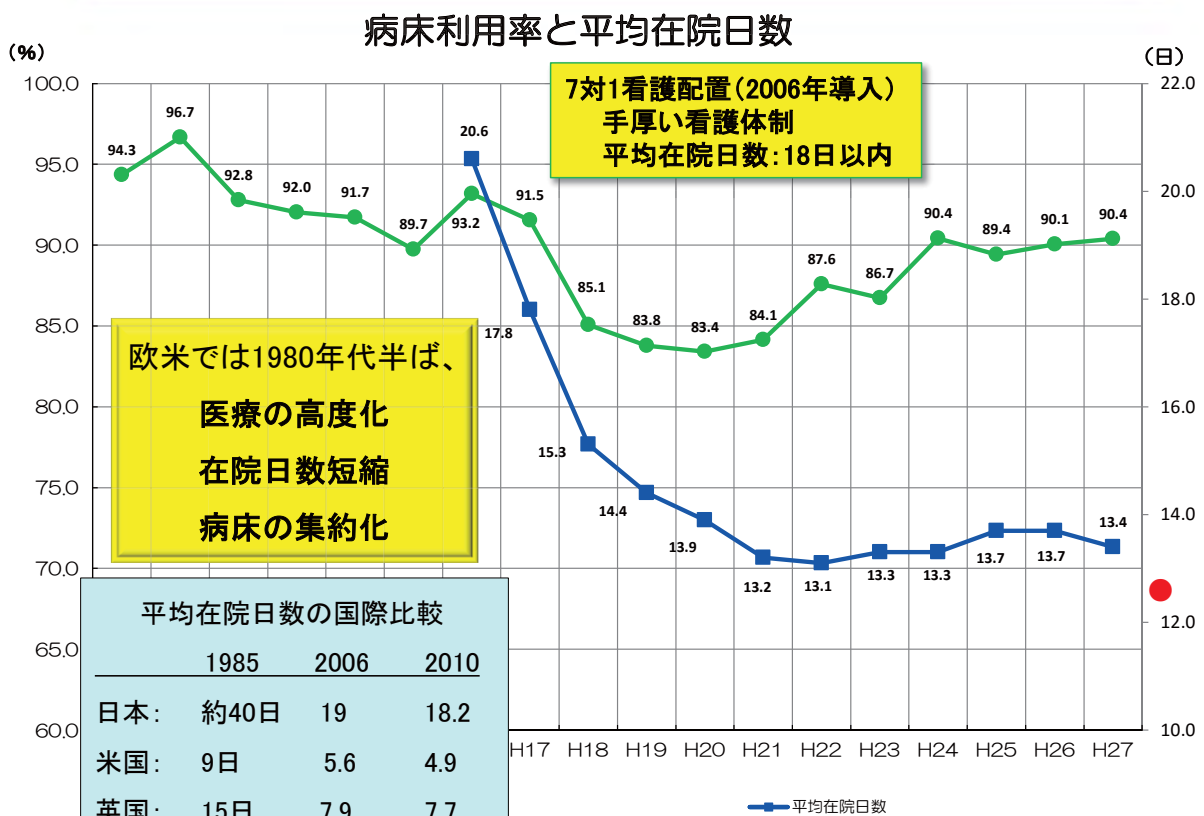
平成26(2014)年12月31日現在



当院の常勤職員数の推移



当院の病床利用率と平均在院日数



顔の見える関係づくり:地域での円滑な連携

2013年度:在宅患者訪問看護(認定看護師の同行訪問体制)

2014年度:他職種連携のための事業所間交流研修プロジェクト



訪問看護研修



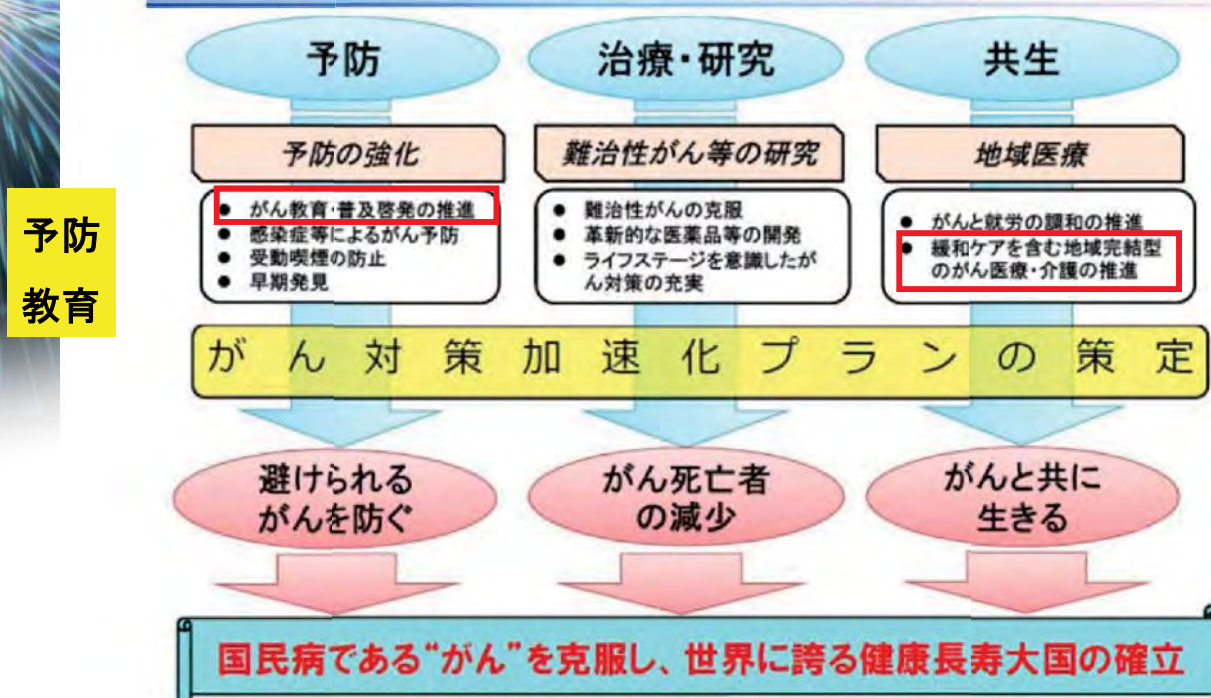
当院リハビリ部門での研修

2015年度:磐田市・森町の病院・訪問看護ステーションの看護代表者と薬剤師のつながる会設立

私たちの使命は診断・治療だけではない

次世代に目を向けて

「がん対策加速化プラン」の3本の柱



予防教育

地域の皆さんが安心して暮らせるように

地域医療連携

患者本位

医療・福祉・保健・行政のより密接な連携

地域の皆様の健康を守る

病院完結型から地域完結型医療へ

① 疾病管理(診療の継続):連携パス

② 施設間連携から職種間連携の強化へ

③ 医療機能の分化と役割分担の徹底

ネットワークによる情報共有

ICTによる医療情報の共有

地域医療の質の向上

患者・家族の満足

本日のメニュー

1. 2025年問題とは？

将来人口の影響 など

2. 地域完結型医療とは？

地域中核病院の役割と使命 など

3. 地域医療構想について知ろう

地域包括ケアシステム など



地域医療構想の策定

地域における将来の医療提供体制に関する構想

ビッグデータを基に、

1. 2025年の医療需要と病床の必要量を予測

構想区域ごとの患者数を推計

2. 予測される医療需要に見合った医療機能の
分化・連携の推進

構想区域ごとの医療機能(高度急性期・急性期・
回復期・慢性期)別供給量

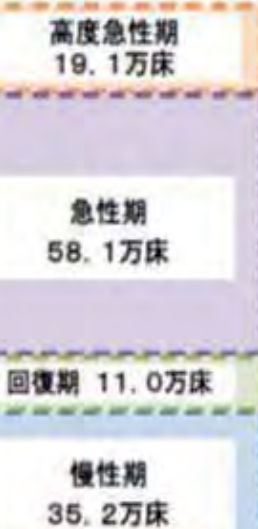
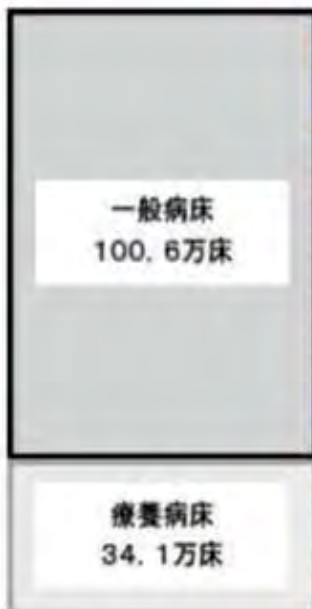
2025年の必要病床数(目指すべき姿)

機能分化等をしないままだと152万床程度

【現状:2013年】

134.7万床(医療施設調査)

病床機能報告
123.4万床
[2014年7月時点]*



【推計結果2025年】

2025年の必要病床数
115~119万床程度

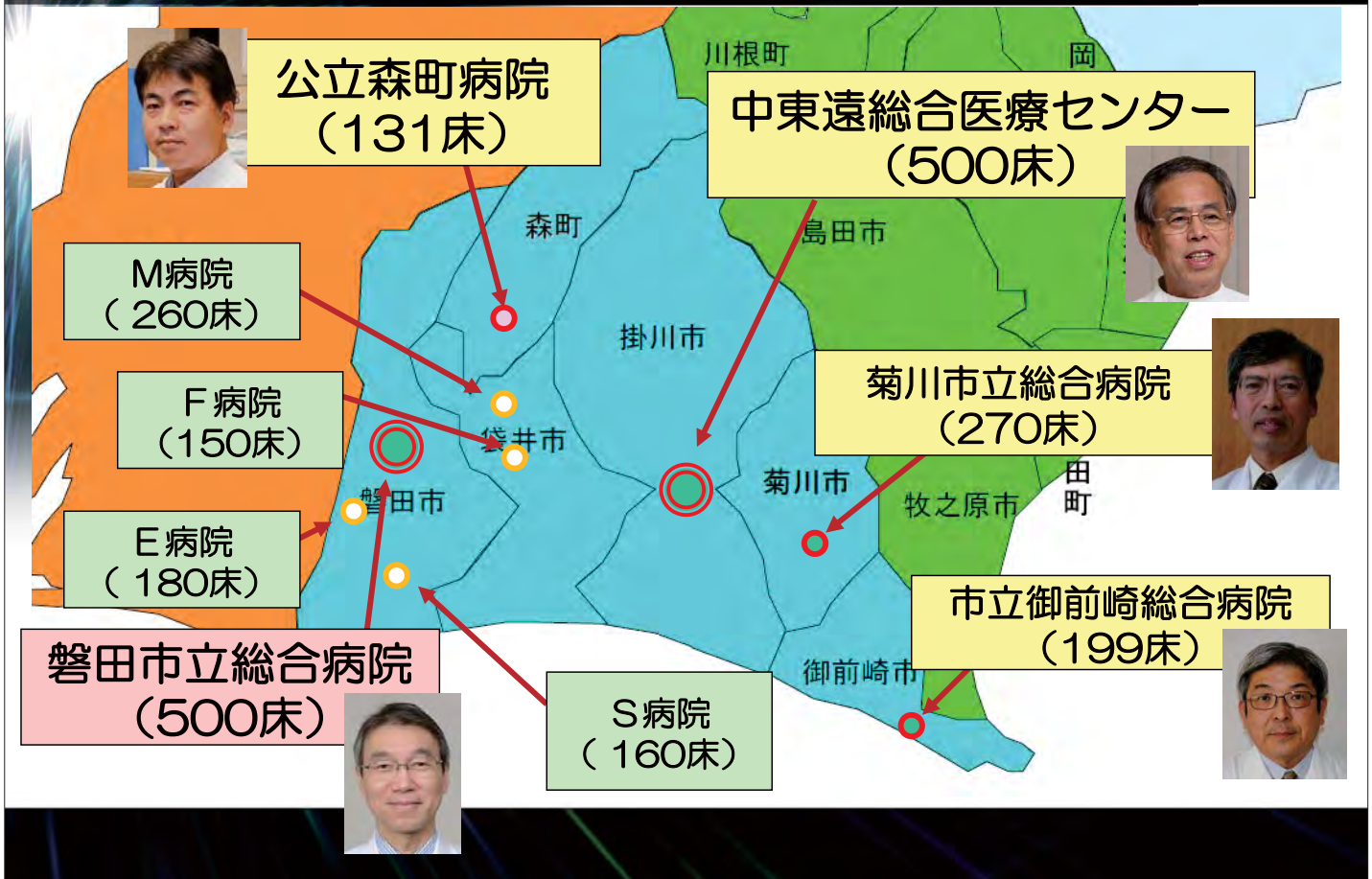


在宅医療等で
追加的に対応
する患者数

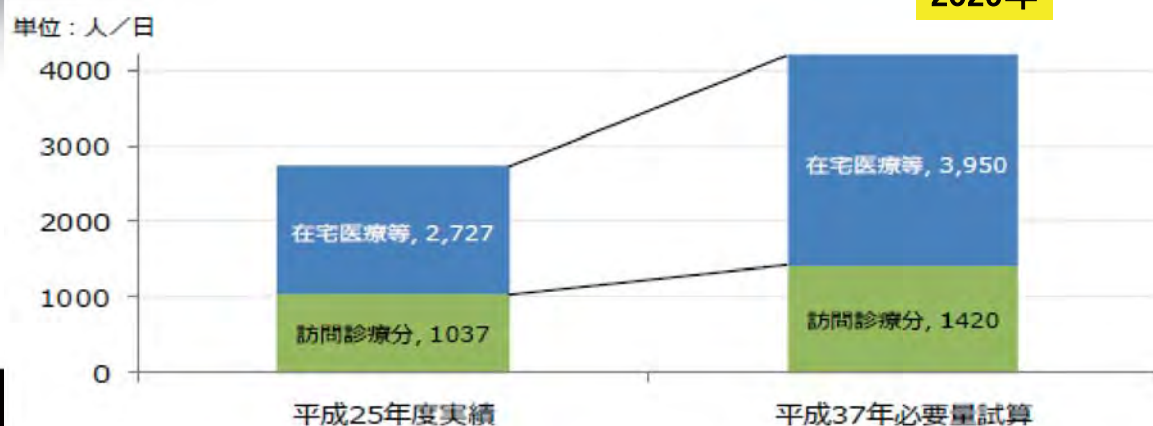
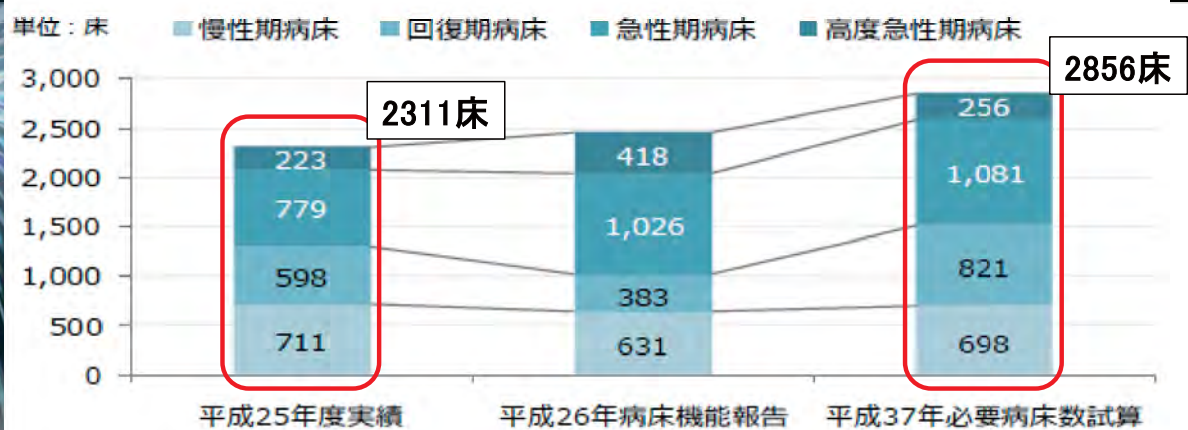
29.7~33.7
万人程度※3

機能分化・連携

中東遠医療圏内の主要な病院



中東遠二次医療圏における医療需要試算



県内構想区域間の患者流入予想(2025年)

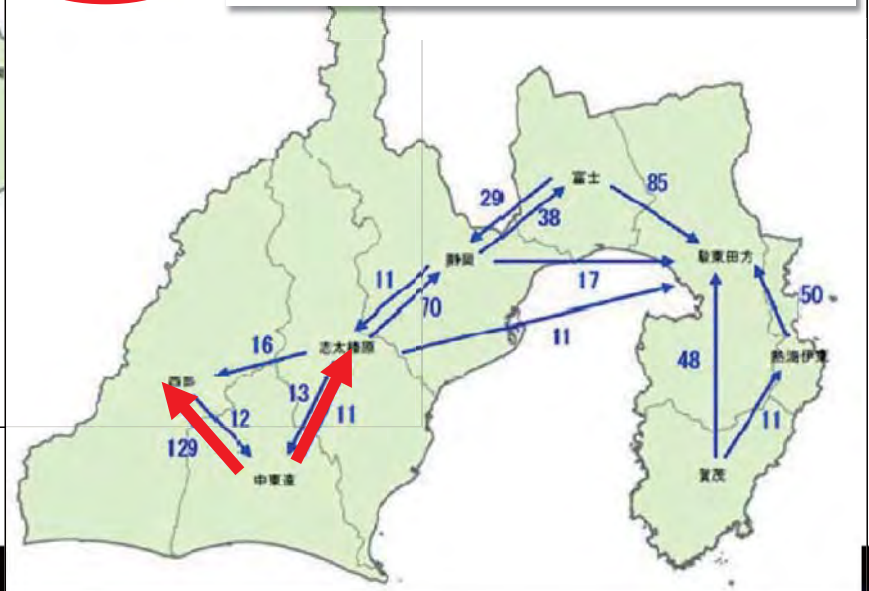
<高度急性期>

医療機関所在地を基にした患者数



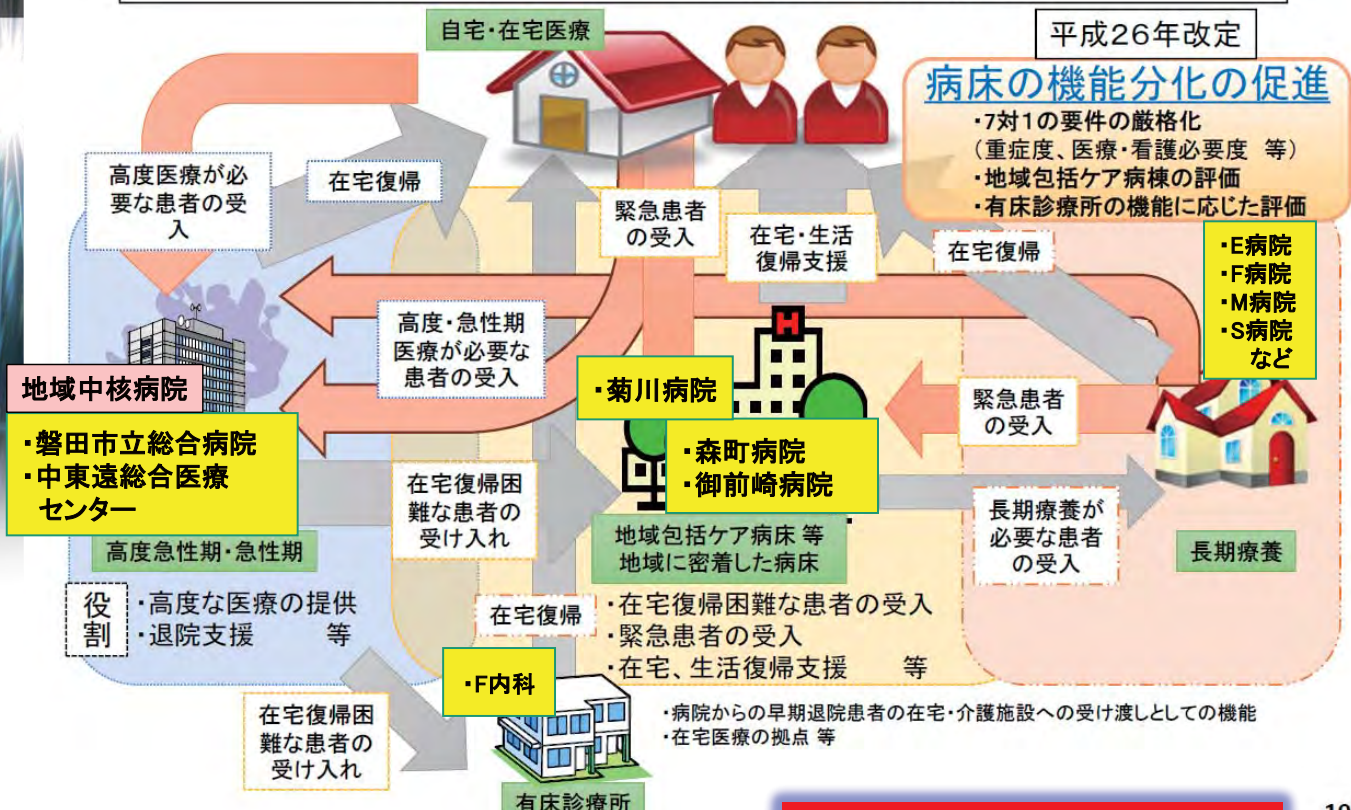
<急性期>

患者住所地を基にした患者数



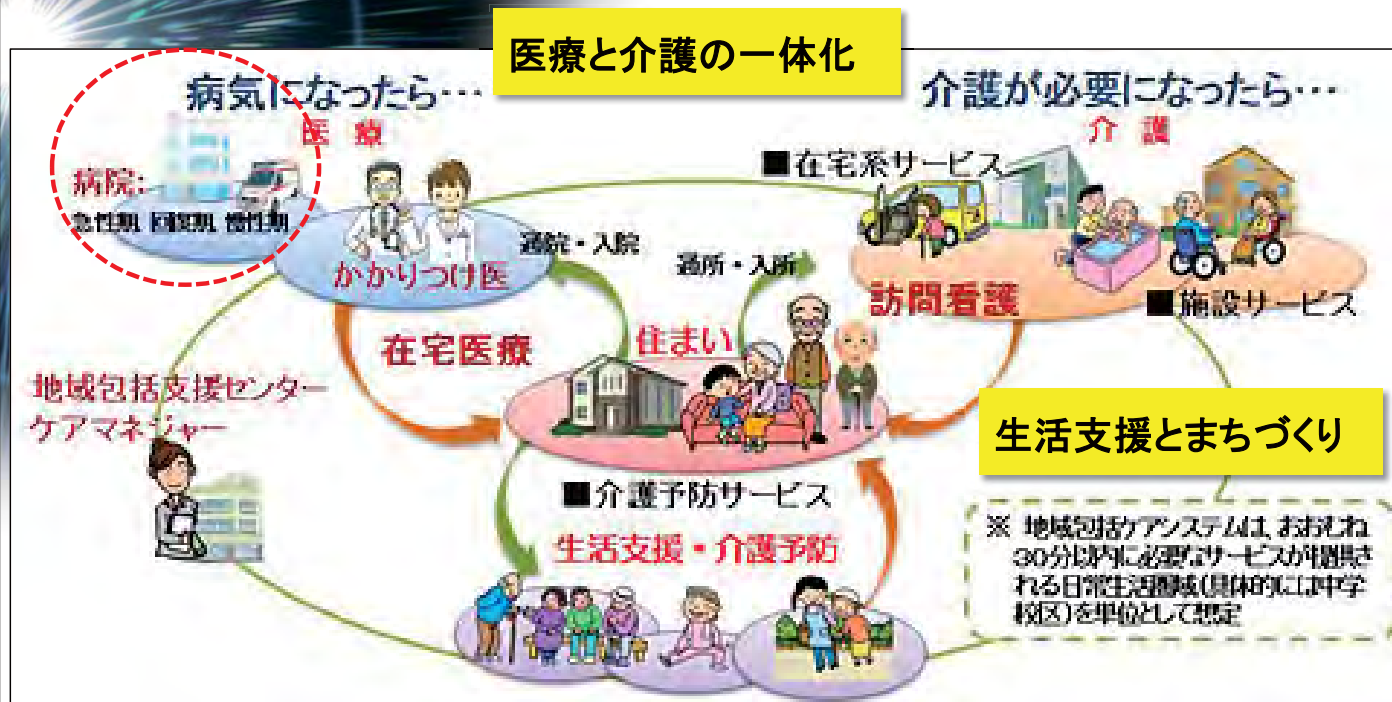
平成26年度診療報酬改定

1. 入院医療について<病床の機能分化>



競合ではなく協調

地域包括ケアシステムのイメージ図



円滑な地域包括ケアシステム構築に向けて

2013年度：在宅患者訪問看護（認定看護師の同行訪問体制）

2014年度：他職種連携のための事業所間交流研修プロジェクト



訪問看護研修



当院リハビリ部門での研修

2015年度：磐田市・森町の病院・訪問看護ステーションの看護代表者と薬剤師のつながる会設立

顔の見える関係づくり：患者を中心とした地域での円滑な連携

地域への医療情報発信



薬剤師・医療技術系職場見学会



終末期の医療 延命を望みますか 天寿のかたちは人それぞれ



まとめ**住民の皆様へのお願い**

1. 日頃から相談できるかかりつけ医を持ちましょう。
2. 地域で『治し、支える医療』の時代です。
意識を変えていきましょう
3. 情けは人のためならず！
地域完結型医療・地域包括ケアシステムでは、住民の皆様の理解と協力のもとでの支え合う体制づくりが必要です。
4. その時に慌てないために、自分らしく人生を生きぬくための意思決定を！
5. 今後ますます病気の予防が大切です。食生活から始まる病気予防に大いに関心を持ちましょう。

